

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなで不安・悩み解消「オンライン子育てサロン@ながの」事業
事業主体 (連絡先)	ゆめサポママ@ながの 080-1142-7840 (事務局 小宮山聖美)
事業区分	(2) 保健・医療・福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,816,313 円 (うち支援金: 1,392,000 円)

事業内容

オンライン子育てサロンの開催

各地の子育て支援センターで行われているようなイベントをオンラインで開催し、居住地や各々の状況に関わらず誰もが平等に情報の入手や人のつながりを作る機会を提供する。

- ・週3日(月・水・金)、午前10:00~11:00
- ・オンライン開催 (Zoom 使用)
- ・有資格者や活動実績がある方にお願ひし、講座やイベントなどを開催



【2/18 開催のイベントの様子】

【目標・ねらい】

- ① LINE 登録者数 3,000 人
- ② オンライン企画 (53 回開催) 参加延べ人数
無料講座 53 日×10 人=530 人
(1 回あたり目標 10 人)
有料講座 10 回×10 人=100 人

事業効果

- ① LINE 登録者 801 人 (3 月 1 日現在)
- ② オンラインサロン参加人数
10 月 (13 回) 101 人、11 月 (12 回) 78 人、12 月 (11 回) 71 人、1 月 (9 回) 108 人、2 月 (10 回) 130 人 合計 55 回 488 人 (目標より 2 回多く開催)
- ③ イベント開催後に公式 LINE へ感想や感謝の言葉などが届くようになってきた (別紙参照)
- ④ LINE 登録者は、当初の目標の 3 分の 1 程度ではあったが、参加人数の目標が約 9 割達成
- ⑤ 運営やサポートスタッフは子育て経験がある人ばかりで、地元の母親同士が支え合う仕組みとなった
- ⑥ 運営やサポートスタッフにとってもみんなで集まることのできるという経験と自信になった
- ⑦ 市報やメディア等からの取材依頼や、チラシの追加希望がきたりなど、少しずつ認知度が上がっている

※自己評価【B】

- 【理由】・LINE 登録者数が 3 分の 1 以下だった
- ・目標 53 回を 55 回開催した
 - ・無料講座への参加人数が目標の 550 人に対し、488 人 (89%)
 - ・LINE に感謝の声などが届き、リピーターも生まれている

今後の取り組み

- ・2022 年度も継続して、週 3 回開催することを決めた
- ・長野県助産師会様から、引き続き参加協力をご提案いただき「助産師さんとおしゃべり会」を継続していく
- ・事業の継続のため、今後は午後の子どもがお昼寝の時間に、母親を対象とした安価な有料講座を計画していく。
- ・子育て広場や図書館、その他公共施設にチラシ設置協力を引き続きお願いしていく
- ・Zoom の使い方が分からなかったり、ハードルを感じている人のために、地域の支援センターなどと共催で Zoom の使い方講座などを開催していく

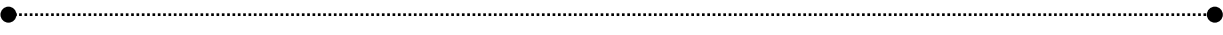
※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	困難さを有する子ども・若者が野外活動などを通し豊かな心を育む事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 信州親子塾 長野市大字東和田714番地8 光ビル2F
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業 (3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト、ハード
総事業費	609,165円 (うち支援金: 461,000円)



事業内容

1 野外活動と宿泊体験

長野県内や近隣県の自然や文化施設の利用を通じた活動により、子ども・若者に豊かでたくましい心を育むことを目的としている。活動内容は海での宿泊合宿、山での宿泊体験、川遊び、海釣り、町探検など。

- ・糸魚川での1泊2日の宿泊体験
- ・小谷村の沢でのシャワー・クライミング
- ・長野市錬成センターでの1泊2日の合宿
- ・親不知での海釣り体験
- ・松本市での市内探訪



【目標・ねらい】

- ①自然の中で活動することの喜びを実感することができる。
- ②子どもたちや若者たちが自分のやりたいことを実行できるという達成感を体得できる。

事業効果

- 1 コロナ休校以降、学校へ行かない子どもたちの受け入れが増加。学校以外の居場所、学びの場としての存在感が増してきた。
- 2 親子塾を利用することで自分らしさを取り戻し元気になってきた子どもたちが、自分たちから提案した企画を実行することで達成感をもつことができるようになった。
- 3 保護者や地域の方たちも参加することでHSCや不登校の子どもたちに対する理解を進めることができた。

今後の取り組み

今後も身近な自然の中での体験活動を通すことで、子どもたちや若者たちに「ふるさとを大切にしたい」をさらに育んでいきたい。また、地域の教育施設や企業なども連携することを通し、HSCや不登校の子どもたちに対する理解を進めていきたい。

※自己評価【 A 】

【理由】

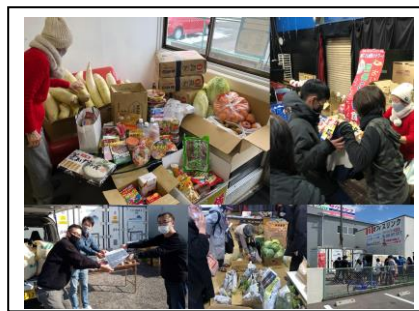
- ①多様な年代の人たち(子どもから大人まで)や保護者や地域の人たちも参加することでいろいろな形での交流ができた。
- ②参加者数が増えてきている。
糸魚川 海の宿泊体験 33名
シャワー・クライミング 17名
錬成センター合宿 22名
海釣り体験 17名
松本市探訪 21名
- ③子どもたちが提案したことをほとんど実行することができた。また、その中で子どもたち、若者たちの間で仲間意識が育ってきて

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生鮮食品のフードドライブ・パントリー事業
事業主体 (連絡先)	信州こども食堂印 SDGs プロジェクト 長野県長野市平林 2-14-54 TEL.026-254-5880 FAX.026-254-5881
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,143,500 円 (うち支援金 : 3,996,000 円)

事業内容

- ① 生鮮&冷凍食品を収集するフードドライブの開催 (R3年4月~R4年3月で年12回) とその食品の冷蔵冷凍保管 (365日)。
参加 120名/目標 200名
- ② それらの食品を、生活困窮者や一人暮らしの学生、こども食堂運営者へフードパントリーを実施 (年24回実施※こども食堂への支給も含む)
参加・学生支援 450名+こども一般 600名
=1050名/目標 1000名
- ③ 上記運営をする中で、オペレーション等を探求し、食品管理システムを構築。



【フードドライブ&パントリー】

【目標・ねらい】

- ① 生活困窮者支援
- ② 生鮮冷凍食品のロス削減
- ③ 地域住民同士の助け合い

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

従来集まりづらかった、または受け入れづらかった生鮮冷凍食品の寄贈が増えた。ホットライン信州との連携により、JA グリーン長野様や長野牛乳さまから年間 12t ほどの寄贈を受け入れたり、(一社) 全国食支援活動協力会から寄贈された冷凍弁当やセブンイレブンから寄贈されたアイスクリーム 300 個など、フードロス軽減と困窮者やこども食堂運営者支援に貢献できた。長野青年会議所卒業予定者からもお米が寄贈された。学生支援も延べ約 300 名へフードパントリーが行えた。システムは検討の余地が多く、回収作業に追われた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

コンテナ前で行うフードドライブは、生鮮食品も集まるようになり、来年度に向けて期待が持てるが、こども食堂運営者や食品を必要とする方への配布は不十分だったため、告知と切り口を変えながら「フードロス軽減に協力する気持ち=不要食品寄贈の気持ち+貰って消費してあげるMOTTAI NA I」として、全国で初の特殊システム搭載の大型冷蔵冷凍コンテナ設置フードバンクの活動を大きくしていく。そのための協力者の増加と、量が増えることでシステム活用活性化に挑む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価【B】

【理由】生鮮食費の受入は目標達成でき、フードロス軽減や助け合い活動も改善できたと思いますが、こども食堂運営支援や生活困窮者への支援は、告知なども含め足りず、同じ顔ぶれ感や参加人数増加があまり見られず、充分ではなかった。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「食から健康づくり」高齢者のフレイル予防事業
事業主体 (連絡先)	公益社団法人 長野県栄養士会 電話 026-235-2308
事業区分	保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,647,708 円 (うち支援金: 1,028,000 円)

事業内容

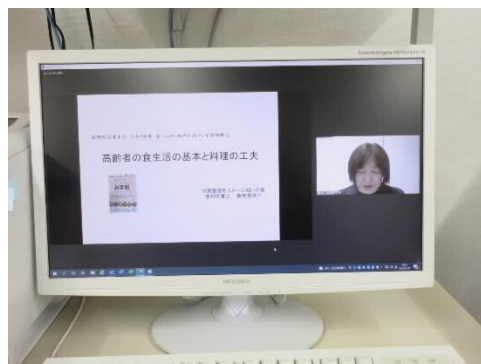
○高齢者のためのお手軽レシピ集作成

「食べるから始めよう！フレイル予防 お手軽レシピ集」を作成しました。管理栄養士・栄養士及び介護支援専門員からなるワーキンググループが中心となり作成し、高齢者のフレイルを食生活から予防するアドバイス、また簡単料理を紹介しました。



○高齢者の食生活に関わる専門職の研修会

「食べるから始めるフレイル予防研修会」を開催。在宅療養者の食生活に関わっている介護支援専門員、介護福祉士、管理栄養士・栄養士などを対象に、作成したレシピ集を活用した研修会を実施。研修では、東京都内で在宅医療活動している医師から食生活の重要性をお話しいただいた。また、介護支援専門員や管理栄養士の高齢者の現状と課題の講話もあった。



【目標・ねらい】

食の専門家として、簡単にバランスのよい食生活を営む上でのポイントを冊子にまとめ、それを活用していただくことにより高齢者のフレイル予防に貢献する。また、在宅療養者の食生活の適正化を図る。

○長野県栄養士会ホームページでの周知

レシピ集を、誰でも参考にできるように、長野県栄養士会のホームページに掲載した。また、在宅介護支援センターなどに紹介した。

事業効果

- ① 低栄養傾向 (BMI 20 以下) の高齢者の割合が減少
- ② 健康寿命が延伸

※自己評価【B】

【理由】

- ・在宅療養者の食生活に関わっている者を対象に研修会を行うことにより、共通認識が生まれた。
- ・レシピ集やホームページは高齢者の健康的な食生活に寄与するものとなった。

今後の取組

- 新型コロナウイルス感染拡大のため、地域の高齢者への食生活講座を開催することができなかったことから、来年度以降、栄養士会会員がこのレシピ集を活用し講座を開催していく。
- レシピ集を長野県栄養士会ホームページに掲載したことから、高齢者や高齢者の食生活を支える方々に見ていただけるよう周知していく。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野地域における里親等推進事業
事業主体 (連絡先)	長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会 長野市箱清水3丁目19番2号(事務局)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	495,000円 (うち支援金: 357,000円)

事業内容

コロナ禍にあっても、里親との出会いを待ち望んでいる子どもたちのためには、広報啓発活動を途切れずに行っていく必要がある。そのため里親制度に関する動画の制作を、視聴していただく側の地域住民、学生等と、意見交換・勉強会をしながら制作し、広報啓発活動を行った。

- 1 動画制作のための意見交換・勉強会(コロナ禍アンケート方式)
 - ・長野市主任児童委員部会研修会(意見交換・勉強会): 5月19日
長野市ふれあい福祉センター 主任児童委員 68名参加
 - ・長野県立大学里親制度研修会(意見交換・勉強会): 6月24日
長野県立大学ラーニングホール こども学科3年生 40名参加
 - ・長野市職員向け里親制度研修会 関係部署職員: 5月24日
- 2 制作した動画を用いての広報啓発活動
 - ・YOUTUBEにアップ・里親カフェ、関係機関等での上映

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①長野市主任児童委員部会里親制度研修会、長野県立大学こども学科里親制度研修会、長野市職員向け里親制度研修会等で地域住民代表、学生、関係機関と動画内容について意見交換・勉強会を通し、視聴する側の意見を反映した動画製作ができた。また、勉強会を通して里親制度について正しい知識を持てただけだ。
- ②制作した動画をYOUTUBEへアップしたり、里親カフェや関係機関で動画を上映し視聴していただく機会を増やしたり、10月の里親月間ではSBCのトイゴビジョンで1日8回1か月間動画CMを放映した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

コロナ禍にあっても、里親との出会いを待っている子どもたちのために広報啓発活動を途切れずに行うため、里親制度広報啓発動画「ともに歩む喜び」を、視聴していただく側の地域住民、学生、関係機関の方々の意見を多く反映して制作することができた。現状では里親に興味、関心のある方々がYOUTUBEや里親カフェ、研修会などで視聴している。今後は、里親制度に興味や関心がない、里親制度自体を全く知らない方々に、「里親制度を知っていただく機会」を設けるために、全く違ったジャンルの方々との「コラボカフェ」、福祉に興味はある方向けに「ようこそ里親カフェ」を企画しこの動画を視聴できるよう計画していきたい。また、教育委員会、保育幼稚園等関係機関とも連携して学生、子どもたちに里親制度を正しく理解してもらえるよう取り組んでいきたい

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【動画の一場面とQRコード→】



【目標・ねらい】

- ① 地域住民・学生の意見を反映した「里親制度」広報啓発動画制作
- ② 制作した動画を用いて広報啓発活動

※自己評価【 A 】

【理由】

計画より多くの方に周知することができ、地域における里親制度への理解が大きく深まった。

*動画完成から6か月での視聴人数

- ・YOUTUBEでの視聴回数 474回
- ・里親カフェ及び関係機関での視聴者 173人
- ・アンケート協力者の完成上映視聴者 108人
- ・現時点で 755人が動画を視聴

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域に広がる農福連携推進事業
事業主体 (連絡先)	信濃町 (担当: 信濃町役場産業観光課、電話 026-255-3113)
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実 / (6)産業振興、雇用拡大
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	401,059円 (うち支援金: 300,000円)

事業内容

障がい者等が就労による社会参加を促進するため農福連携を推進することとして、取り組みに興味を示す農業者・福祉サービス提供者の相互理解を深める以下の取組を実施した。

- 施設外就労試行
 - 町内農家の農地の一部をモデルほ場とし、障がい者によるピーマン及びぼたごしょうの収穫作業等を試行した。
 - ・参加者: 福祉施設利用者 6名
 - ・収穫量: ピーマン コンテナ 66箱
ぼたごしょう 403kg
- 「地域を広げる農福連携」シンポジウム開催
 - 地域住民や福祉関係者の協力を得て農福連携の推進をテーマにしたシンポジウムをオンラインで開催した。
 - ・参加者: ライブ配信 50名
録画配信最終視聴回数 384回
- 農福連携推進手引きの作成
 - 農業現場への障がい者の施設外就労がスムーズに行われ、農業・福祉の双方が相互利益の関係になるよう、作業の切り出しや作業ガイドの作成等をまとめた手引きを作成した。



【ピーマンの収穫作業】

【目標・ねらい】

- ①農業の労働力不足の解消、また、障がい者就労の促進のため、農福連携の理解を深める。
- ②障がいの有無を問わず、自ら選んだ地域で安心して自分らしい暮らしを実現するための就労の場を広げる契機とする。

事業効果

- オンラインで開催したシンポジウムの当日参加者は50名(町内20名、県内25名、県外5名)であり、後日Youtubeで録画配信(384回視聴)も併せて行うことで、県内外から多くの方に参加いただき、農福連携の理解が深まった。
- 地域住民や関係機関の協力により、町内における農福連携の取組が1件成立した。
- 近隣市町村と提携し農福連携が広まることで、時期・形態等において更に多様な就労の場を確保できる可能性を認識できた。

※自己評価【B】

【理由】

コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによるシンポジウム開催となったが、多くの方に参加いただき、相互理解が深まり、今後の取組に対する可能性をみる事ができた。

今後の取り組み

- 町内における農福連携を推進するため、本事業で作成した手引き等で発信を行い、取組事業者の増加につなげたい。
- 作業の切り出しや作業ガイドの作成に至る過程や考え方は、季節型労働である農業以外の産業分野においても、応用可能であり発展性があることから、他分野での福祉との連携を模索したい。
- 農福連携は、時期・形態等において更に多様な就労の場を確保できる可能性があることから、近隣市町村との提携を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある